

研修医通信

平成 27 年 12 月 25 日 第 62 号

研修医 横山達士、松波山水、宮澤彩紀

【宮澤 彩紀（桑名市総合医療センター、1年目）】

初めましての方もそうでない方も、こんにちは。桑名市総合医療センターで研修しております、1年目の宮澤彩紀と申します。12月1日から1ヶ月間紀南病院で研修させて頂きました。このような場を設けていただき大変光栄です。せっかく頂いた機会ですので、私が紀南病院での「地域医療研修」にて感じたことを少し述べていきたいと思います。

私が紀南病院での研修期間を通して一番驚いたのは、紀南病院の研修体制が大変都市的であるということでした。私は尾鷲市出身で中学・高校と新宮市内まで通学していたこともあり、紀南病院のある御浜町も幼い頃から慣れ親しんだ土地です。この紀南地域に限らず、いわゆる「田舎」と言われる土地にはよくあることなのですが、基本的には良くも悪くも「なあなあ」な文化です。このような土地で生活していくためには、その土地に根付いた成文化されてない文化・風習を自分の肌で感じ取り、それに自分で順応していくことが求められます。自由に行動できる範囲が多い分高いコミュニケーション能力が必要とされ、その能力が乏しい人には大変生活が困難になってしまう可能性があるのが「田舎」の特徴です。そんな環境下にあって、紀南病院の研修体制は大変都市的でした。あらかじめ研修内容が成分化されており、体系立ててまとめられ、効率的に地域医療が学べるような仕組みになっていると感じました。それでいて自分がやりたいことには何でもトライでき、1週間ごとに研修医一人一人に合った研修プログラムを作成できるという自由さは「田舎」地域ならではの醍醐味だと思います。それは過去に数多くの研修医、学生を育ててきた実績のある紀南病院だからこそでき上がったものだと思います。

このような研修プログラムを行いながら、大変充実した1ヶ月を過ごさせて頂きました。初めて自分の研修病院以外の研修医の方々と過ごさせて頂けたのも大変楽し



かったです。今月は私を含め3名の研修医がいたのですが、みんな出身大学、研修病院がバラバラであり、普段違う環境で生活する2人との交流は私にとって今後の研修を行う上でとてもいい刺激となりました。また指導医である山本陽子先生にはここでは書ききれない位、公私ともに大変お世話になりました。陽子先生からは研修医として最低限学ばなければいけない基本的な部分を、懇切丁寧に、また非常に体系立てて教えて頂きました。とても1ヶ月だけとは思えないくらいたくさん先生から学びました。陽子先生のおかげで密度の濃い1ヶ月を過ごすことができたと言っても過言ではありません。不勉強で至らない点が本当に多い私に、いつも最後まで丁寧に教え続けて頂いた先生には頭が上がりません。本当に有難うございました。また、日中救急対応時に指導して頂いた森本先生にも本当にお世話になりました。森本先生もいつも体系的に説明してくださり、常に何を鑑別に挙げるかということを念頭に置きながら指導して頂きました。出来の決して良くない私に森本先生も最後までいつも教えて下さり、本当に有難うございました。直接指導医ではない先生方も常に声をかけてくださり、私が質問すれば先生方皆様いつもこやかに対応して下さいました。コメディカルや事務の方々もいつも明るく笑顔で、挨拶の絶えない職場であり、私に常に優しく接して下さいました。また、今回紀南病院で地域医療を学ばせて頂くにあたり、研修センター長である奥野先生にも大変お世話になりました。ここ紀南病院で過ごした1ヶ月という時間は大変短くあっという間に過ぎてしまいましたが、私がこれから医師として生きていく上で間違いなく必要な時間であったと思います。私が紀南病院で研修する中でお世話になったすべての方に感謝申し上げたいと思います。1ヶ月間本当に有難うございました。





【横山 達士（東京大学附属病院、2年目）】

一ヶ月間お世話になりました。初の三重県、初の市中病院ということで、紀南病院の皆様にご迷惑をお掛け致しておりますが、なんとか無事に一ヶ月を修了することができました。来月まで研修の予定ですので、よろしくお願い致します。

紀南病院での研修は、お陰様で非常に充実したものとなっております。まず、指導医の先生方が、総合的な視点を持って診療されていることが印象的でした。それは、全ての疾患をみることができる「総合内科」と言われる臨床能力のみを指しているのではなく、社会保障や地域病院経営にまで通じられており、「包括的な医療とはこういうことか」と強く実感しました。かつ、研修医に

も熱心に御指導頂き、大変に感謝致しております。

また、コメディカルの方々も非常に親切で、病院のルールも無駄な制約が非常に少ないと感じました。大学病院にいと、雑務が非常に多く、臨床能力を効率的に磨けるかというところではございません。大学病院では、カルテを整理したり、指示を細かく入力したり、過剰な人数で患者を搬送したり、、、とストレスばかりです。紀南病院の皆様は本当にフットワークが軽く、気さくで親切な方ばかりで、研修環境として最高であると感じました。

その上、太平洋を望む立地は素晴らしく、勝手に癒されておりました。私は石川県出身ですので、日本海は見慣れているのですが、日本海はいつも荒れており、天気も曇りばかりで気分が暗くなります。紀南病院から見える海は綺麗な緑色で、石川県の皆さんに見せてあげたい程でした。

最後に、指導医として担当して下さった山本貴之先生には、公私とも大変お世話になりました。

特に、忘年会の芸にも混ぜて頂いて、嬉しかったです。貴之先生、スクラブも良いですが、芸のためのピチピチ半袖短パンも格好良かったです。来月もよろしくお願い致します。

【松波 山水（三重大学附属病院、1年目）】

12月から研修させていただいています。紀南病院で研修して1ヶ月経ち、自分の未熟さをとても痛感しています。まだ研修1年目ですが、今までの研修では医学知識と患者背景を心のどこかで切り離して考えていました。患者さんの背景を知ることは大切だとわかっていても、「まずは病気のことが第一だ」、「治療が済んでからその先を考えよう」と思っていました。しかし、原因疾患と患者さんの置かれている背景とその両方を並列して考えていかなきゃいけないと強く思うようになりました。医師が患者さんにしなければならぬことは病気の治療だけではなく、まさに全人的にその患者さんを診ることだと気付きました。それはミニタウンミーティングや地域での講演など病院外での活動にも繋がるのだと感じました。これは紀南病院だからということではなく、都市部であろうがどの地域でも常に必要なことだと感じています。当前のことかもしれませんが、僕がこの1ヶ月で学んだ一番大きなことです。まだまだ長い間紀南病院で研修させていただきますので、もっと多くのことを学び、「気付くこと」を大切にしていきたいです。

